

# 鋸南町橋梁長寿命化修繕計画

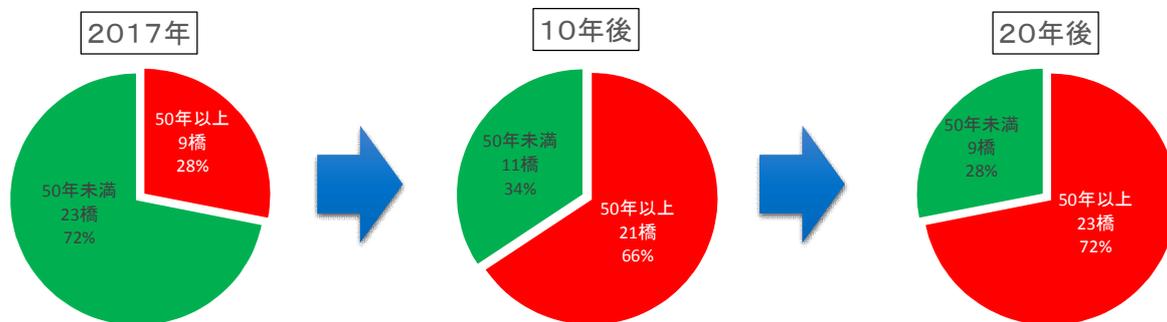


平成30年1月

鋸南町

# 1 橋梁長寿命化修繕計画の目的

鋸南町は現在72橋の橋梁を管理しています。これらの橋梁は今後、老朽化し、更新による財政負担が大きくなることが懸念されています。計画的かつ予防的な修繕を行うことで橋梁の長寿命化を図り、老朽化する維持管理コストの縮減と予算の平準化を行うことを目的としています。



〔建設後50年以上経過した高齢化橋の推移〕

※建設された年の明らかな橋梁で集計

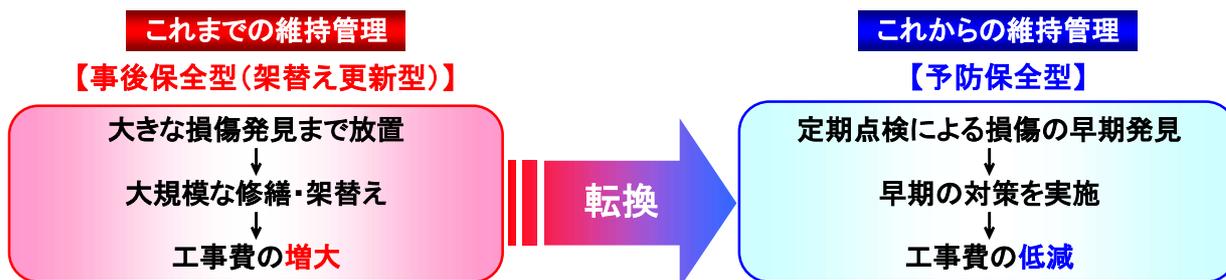
# 2 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁の内訳は、下表のようになります。

	1級町道	2級町道	その他町道	合計
計画対象橋梁数	6	8	58	72

# 3 橋梁長寿命化修繕計画の内容

- 鋸南町では、橋梁の損傷が深刻化してから大規模な修繕や架替え更新を行う対症療法的な事後保全型管理から、損傷が深刻化する前に計画的に修繕を行う予防保全型管理へ転換し、橋梁の長寿命化を図り、修繕に係わる費用の縮減を行うため、平成24年度に『鋸南町橋梁長寿命化修繕計画』を策定しました。前計画策定より5年が経過していることから、今回計画の更新を行います。



- 橋梁の状態を把握するため、平成26年度、平成28年度に定期点検を行い、橋梁の状態（健全性）を評価しました。今後も5年間隔で点検を行い安全の確保に努めていきます。
- 橋梁の健全性と交差条件や路線の状況等に応じて定めた橋梁の重要性より、計画的な修繕が行えるよう修繕実施の優先順位を決めました。
- 一定期間の橋梁の維持管理にかかる費用であるライフサイクルコスト（LCC）の試算を行い、予防保全型管理へ転換した場合の効果を確認します。

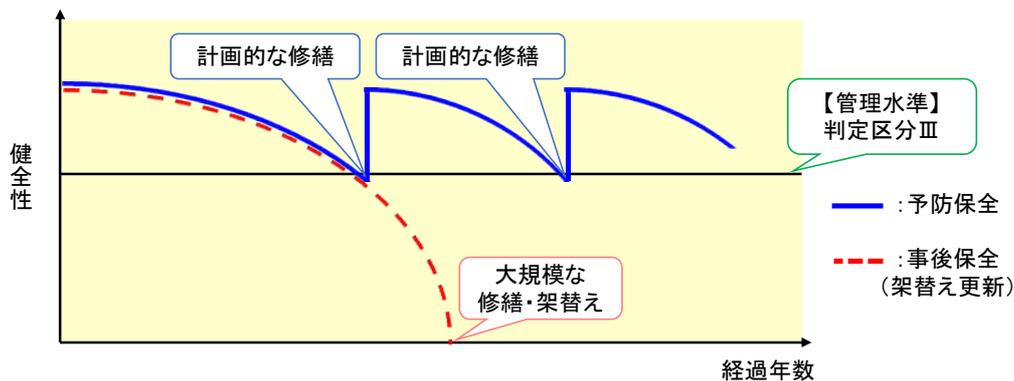
橋梁の状態（健全性）の判定区分

判定区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

## 4 橋梁長寿命化修繕計画による効果

### 【橋梁の長寿命化と高い安全性の確保】

- ◆ 計画的に修繕を行う予防保全型管理の橋梁は、大きな損傷が発見されるまで修繕を行わない対症療法的な事後保全型管理の橋梁より長寿命化が図れます。
- ◆ 鋸南町が管理する橋梁の管理水準は判定区分Ⅲとし、定期点検結果より判定Ⅲと評価された橋梁を対象に、順次修繕を実施することを基本とします。
- ◆ 対症療法的な事後保全型管理では大きな損傷が発見されるまで放置されるため、危険な状態が続きます。予防保全型管理では早期の対策を実施するため、高い安全性の確保が図れます。



### 【予算の平準化】

対症療法的な事後保全型管理では大規模な修繕・架替え更新を行うため、単年度の事業費が大きくなります。予防保全型管理による計画的な修繕を行うことで、予算の平準化が図れます。

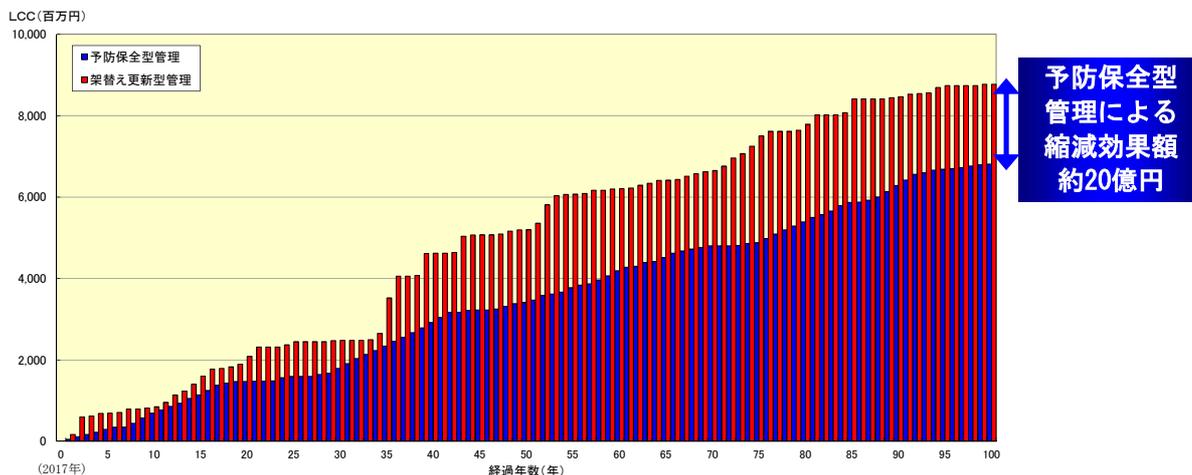
### 【ライフサイクルコストの縮減】

計画的な修繕を行う予防保全型管理は、大規模な修繕や架替え更新によって工事費が大きくなる対症療法的な事後保全型管理よりもライフサイクルコストの縮減が図れます。

→ **縮減効果額は約20億円となります**

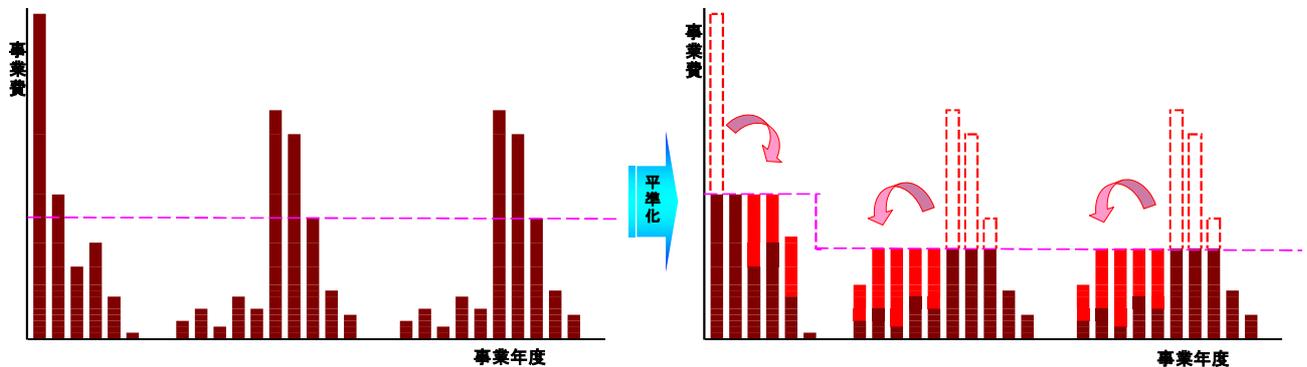
	事後保全 (架替え更新) 型管理	予防保全型管理
対象橋梁の100年間のLCCの合計	約87.7億円	約68.1億円

予防保全と架替え更新の累計ライフサイクルコスト



## 【維持管理コストの平準化】

維持管理に係わる費用が短期間に集中しないよう修繕実施時期を計画することにより、維持管理コストの平準化が図れます。



## 8 計画策定担当部署及び意見聴取した学識経験者等の専門的な知識を有する者

### ◆ 計画策定担当部署

鋸南町 建設水道課 建設環境室 TEL 0470-55-2133

### ◆ 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

- ◆ 聴取内容 : 鋸南町道路橋の長寿命化修繕計画の妥当性について
- ◆ 学識者 : 日本大学 生産工学部土木工学科 構造工学研究室  
教授 阿部 忠 博士 (工学)